令和5年度(第45期)事業計画書

I. 基本方針

○ 社会状況

政府は新型コロナウイルスを5月8日から感染症の分類を「5類」として規制緩和に入り、保健・医療体制や社会・経済的にも正常化に向けて大きく変わります。

○ 経営状況

近年の当協会経営状況は2018年に健診プラザの開設に大きな事業投資を行いました。コロナ禍の中にあって事業は質の高い健診・医療の提供によって価値を高めたことや巡回健診をはじめコロナ接種などに職員一同が精励したことから受診者が増加し、経営的に回復基調となり漸く事業収益は黒字決算となりました。

○ 事業基盤を強化して持続的発展(サステナビリティ)へ

経営的に回復した状況を機に新たなスタートとして「持続的発展(サステナビリティ)」を目指す戦略計画を立てる必要があります。

これまでの投資資金の返済に加えてIT化など必要な投資的資金や物価の高騰・人件費の上昇などの経営環境を乗り越えるために「必要な経常利益を確保する経営基盤の構築」が最重要課題です。収益対策として年間を通した収支バランス、拡大した組織運営の効率化、検診料金の改定などによって収益性を高める経営体質の改善が喫緊の課題です。

この経営体質の参考指標として当協会が加盟する健診機関団体である全国衛生団体連合会(119会員)の平均的経営分析表があり、その比較において当協会の売上高は全国平均に近づいてきましたが生産性・財務体質の指標では課題が多くあります。

○ 働き方改革にIT化と組織の強化

・健診システム更新のため、1年以上かけて情報収集や選定条件を検討してきましたが、「アイテック阪急阪神(株)」に決定し、今年度は令和6年度稼働に向け、設計～導入の取り組みを進めます。ITの活用を効果的に活かすには、今年度各セクションが深く関わってシステム構築する重要な年度であります。

・働き方改革と組織強化については各セクションから課題・意見を集約しました。それぞれの課題について管理部と各部門、関係セクションとの意見交換し、今年度に解決し活かす項目、中長期的の課題解決に取り組む項目に分別して、働き方改革に活かし、組織基盤の強化を図ります。

○ 健康経営に健康寿命の延伸策をサポート

健康経営の価値は有形資産に加えて社員の心身の健康など無形資産重視の時代、働き方改革で人材を活かす健康価値が企業価値を高める重要なファクターになると認識されています。

健康経営に健康診断データを活用して取り組む企業が増えていますが「健康寿命の延伸」策の観点から見ると、がん検診、婦人科検診、生活習慣病、特定健康診査などの受診率は厚労省の目標に達していない状況であり、受診率を高めることが課題です。

また、健康寿命の延伸対策として死因上位にある「がん・心疾患・脳疾患」の3大疾病を早期発見・治療には疾病に特化した質の高い検査「健康検診」や「人間ドック」の受診率を高める必要があります。この検診に必要な費用の支援制度など福利厚生として先進的に取り組む企業も多くありますが一般的にまだまだ健康検診の受診率は低く、欧米の先進諸国企業と比べても非常に低い状況です。

この対策には健診機関が健康検診の取り組み状況について調査し、企業の取り組みプログラムを提案し促進する役割として当協会も積極的に提案する必要があります。

○ 健康づくりのフォローアップ

健診後の特定保健指導・要精密検査などフォローアップを高める重要性から、利便性の高い健康管理センターに隣接して「ウェルネスケアセンター」を新設し健康経営のサポートを強化いたします。

○ 当協会職員の健康づくりサポート

当協会は企業に対して健康づくりを提案、サポートする立場にあり、協会職員の健康福利厚生として健康検診のグレードアップする内容を検討いたします。

○ スローガン

スローガンは当協会が持続的発展(サステナビリティ)しながら保健医学に一層貢献する役割・使命(CSR)を活動方針としてスローガンを「DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、サステナブルな組織にしよう」とし、それぞれの部門方針を誠心誠意推進いたします。

II. 調査研究および普及啓発事業

事業場における労働者の健康保持増進及び職業性疾病の予防、労働衛生管理の普及、地域住民及び学校の保健衛生の向上のため、法令等に基づく健康診断や健康指導等の結果を疾病予防のための疫学的研究に活用し、学会等を通じた情報提供を行います。

1. 調査研究	(1) 事業年報の発行
	(2) 調査研究の推進
2. 普及啓発	(1) 健康教育活動
	(2) 普及啓発活動
	(3) THP の推進
	(4) その他

Ⅲ. 予防医療事業

定期健康診断やがん検診などの巡回健診を中心に、労働衛生機関として働く世代の利便性と精度の高い健診を提供します。第三者機能評価をベースに健診実施に関する品質指針に基づき、内部精度管理・外部精度管理の適切な実施のため、知識及び技能研修受講を推進します。また、とやま健診プラザと、併設の千代田循環器内科クリニックでは、健康診断で要受診判定を受けた受診者が医療機関を受診しやすい環境を整えていきます。

1. 労働健診
2. 生活習慣病予防健診
3. 住民・学校健診等
4. 施設健診(人間ドック含む)
5. その他検査等
6. クリニック

Ⅳ. 健康づくり支援事業

事業所等のニーズに応え、医師や保健師、メンタルスタッフなどの産業保健スタッフが行う健康教育や特定保健指導などで、オンライン面接等のクラウドシステムを活用した運用を引き続き実施します。

また、ウェルネスケアセンター新設に伴い、メンタルサポートセンターや角川介護予防センターと協力してセミナー等の企画を行い、「健康経営」や「健康寿命の延伸」に向けたサービスの向上に努めます。

メンタルヘルス分野では、ストレスチェックサービスの利用事業所が増加傾向であることに伴いサービス効率化に努めます。

1. 特定保健指導
2. その他の保健指導
3. 健康教育
4. メンタルヘルス

Ⅴ. 富山市角川介護予防センター事業

- ・QOL 会員の増加に向けての取り組み
- ・フレイル予防事業の推進
- ・角川ミニジム脚カトレの普及
- ・自立神経機能検査
- ・フェルデンクライスメソッド

- ・角川オンライン健康教室
- ・医療との連携による運動指導
- ・気候療法ウォーキング
- ・イベントの充実
- ・集客営業活動の強化

1. 指定管理事業
2. 自主事業

VII. 理事会・評議員会の開催

○理事会

第1回	令和5年5月	計算書類・事業報告、公益目的事業計画実施報告の承認、 評議員会の招集の決定
第2回	令和6年3月	収支予算、事業計画の決議

○評議員会

第1回	令和5年6月	計算書類の承認、事業報告、公益目的事業計画実施報告の報告
-----	--------	------------------------------